

自然環境体験学習（小学3年生の授業サポート）

文部科学省が定めている授業の中で、小学3年生には「こんな体験授業を実施すること」と定められているとのこと。その中で3年生には「自然環境体験学習」の規定がある。心身の発達過程で自然環境の中に入り、五感で自然を体感することで、地球環境はじめ、生物多様性の大切さを学んでいくと規定されているそうです。

そこで、花実の森では【カブトムシの産卵場所づくりから、幼虫・成虫までの生育観察】をテーマに受け入れ体制と、ノウハウを蓄積させ授業のサポートをしていくこととし、活動を続けてきました。

今までに何校かの参加がありましたので、他校への参考になればと掲載しました。参考になれば幸いです。

【花実の森で自然環境体験学習を実施した学校の例】



当日は、カレッジまでチャーターバスで来村。花実の森での「自然環境体験学習」の内容説明などオリエンテーション後、判別行動で里山に入る。



散策道とは別に設けた“冒険の道”を案内。その後のアンケートで「楽しかった」の声の多さにもびっくり。3歳幼虫観察後、夏の産卵場所づくりを体験してもらった。



間伐したコナラの断面を観察用に仕上げ、「年輪調査による樹齢の知識も体感してもらおう。

カブトムシ分校として引き継がれていければ・・・

【学校校庭でのカブトムシ産卵・生育場所づくりの出前依頼校の例】



花実の森からマイカーで運び込んだチップを産卵場所に敷き詰める作業から。



後日、3年生の皆さんが体験学習に向けて、教室で「里山にすむカブトムシの一生」をしながら、「自然環境・生物多様性」の大切さを学んでもらった。その後、場所を学校裏の雑木林に入り、腐葉土を集めて持ち帰り、チップと混ぜて産卵場所を仕上げてもらった。



さらにその後日、成虫前の時期に飛び寄りよけの防虫網の設置の出前を実施して完了。
夏休み前に子どもたちが成虫探しをしたら数匹見つかったとの報告が担任先生からありました。

【自校周辺の自然環境場所での観察会の出前依頼校の例】

みんなが日ごろ遊び慣れている学校近くの公園に向き、班ごとに分かれていろいろな植物に目を向けてみた。教室で前もって聞いてきた特徴などを思い出しながら収集。持ち帰った葉の分類作業をしながら、「雑草」を「生命のある植物」「生物多様性」を学んでもらう学習となった。



オリエンテーションで、草にはすべて名前があり、それぞれの特徴をもって生きていること。葉の形、色、葉のつき方、茎の形などを説明。今日はじっくり観察しながら少しづつ持帰って調べてみよう。

